

3期 5歳児

実践① 運動会を通しての5年生との交流（9月27日）とその後

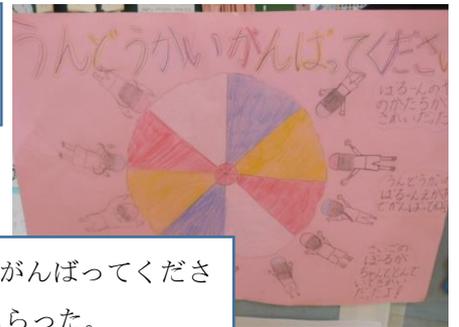
小学校の校庭で運動会に向けての活動に取り組む様子を日常的に小学生が見てくれることがあり、「小学生がこっちを見ていたよ！」と幼児は喜んでいました。1学期から交流をしてきた5年生にバルーンの取組を見てもらった。「お兄さんお姉さんがいっぱいいる！」と、親しみをもった小学生が来てくれたことに気付いていた。

5年生に「バルーンがきれいにふくらんでいました。」「きらきらを飛ばすところが素敵でした。」とすてきだったところをたくさん話してもらい、自信をもったようだった。「もっと笑顔があるといいと思います。」と具体的なアドバイスももらい、少し演技に緊張していた幼児がにっこりと笑顔を見せると「かわいい！」という声が5年生から上がる場面もあった。後日5年生から絵と「うんどうかいがんばってください」と平仮名で書いた手紙を受け取り、応援してくれていることを感じて喜んでいました。

幼稚園の運動会後には、小学校の運動会に向けて取り組んでいる小学生の姿に関心をもつことができるような言葉を掛けていきたい。



バルーンを5年生がたくさん見に来てくれて、張り切っていた。



5年生から「うんどうかいがんばってください」とあたたかい手紙をもらった。

すてきだったところや、もっとこうしたらいいなと思うところを5年生が伝えてくれた。



「小学生の踊り、かっこいいね。」刺激を受けていた。

<〇成果 △課題>

- 〇1学期から継続して計画的に交流をすることで、小学生に親しみを持ち、交流の機会を楽しみにする幼児の姿が見られる。
- 〇「にこにこ笑顔でやろう！」など、5年生に教えてもらったことに刺激を受けて、自分たちの活動に生かそうとしていた。
- 〇教員同士も活動の流れだけではなく幼児・児童に経験してほしいことを出し合うなど、打合せの内容を前回の反省から考えて進めることができた。今後も、限られた時間の中でも要点を押さえた話合いができるよう、活動のねらいを明確にして打ち合わせを行っていききたい。

実践②「いろいろな形があったよ！」～万国旗製作とななはけラボでの活動～（9月中旬～10月初旬）

<万国旗製作>

運動会に向けてポスターや入場門などを製作し、当日に向けて期待を高めていた。会場に飾ってみんなを応援するために、万国旗を製作しようということになった。9月当初から世界の様々な国や地域の国旗のカードや図鑑、世界の地図などを保育室に用意しておく、「(国旗を見て)これ知ってる!」と興味をもっていた。「三角だ!」「星がいっぱいあるよ。」など国旗の形にも関心をもっていた。製作では、見本の国旗と同じように描こうと、形や色をよく見ながら描いていた。四角や星の大きさのバランスが見本と違うと、本物と同じようにしようと、何度も描き直そうとする幼児もいた。

<運動会後の活動>

いろいろな形に興味をもった幼児と集合時などに丸・三角・四角などの形探しをして遊んだ。丸いものは「時計」「ドーナツ」「おひさま」など身近なものを思い思いに発言していた。形を印刷した紙に絵を描いたり、物を紙に置いて形を写し取ったりして楽しみ、製作した作品を「ななはけラボ」に持っていた。「ななはけラボ」の行き帰りの途中やその後の遊びや生活中でも、「窓は四角」「猫の耳は三角」「バルーンは丸いけど、山を作ると三角になる!」などいろいろな形を見つけて伝える姿が見られている。

万国旗製作。「この旗にしよう!」と選び、形や色をよく見て、じっくり描いていた。

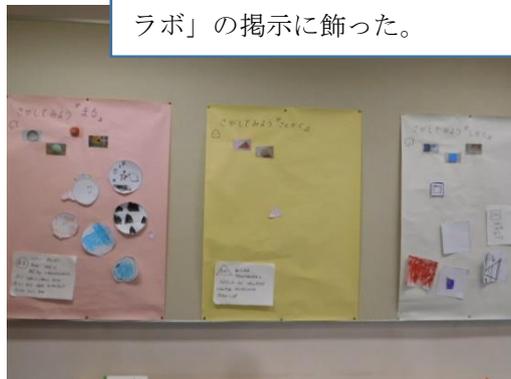


様々な国や地域の万国旗ができ、友達と作品を見合っていた。運動会当日、園自席のテントに飾った。



身近な環境の中からのいろいろな形を探して、描いたり、型取りをしたりした。小学生も形に関する学習をしていることを知り、「ななはけラボ」の掲示に飾った。

猫ごっこで使う猫の耳作り。「三角にしたいんだ。」と、三角のブロックで形を取って描こうとされていた。



<○成果 △課題>

○普段は意識することが少ない生活の中にある様々な形に注目することで、身近な物の形を探したり、見たり、描いてみたりすることにつながった。遊びに必要な空き箱や素材の形を「細長いのがほしい」「ビニールテープは丸いから転がる」など形の名前を出して探したり使ったりする姿も見られるようになっている。今後の遊びにもつなげていきたい。

○幼稚園の運動会の時期が小学校よりも早く万国旗製作の時期が早かったが、国旗の図鑑や掲示物などで親しみをもって好きな国旗を選び、製作していた。

○形を捉えて同じように描く取組には個人差が大きかった。見たものを同じように描くには理解力と共に表現力も必要であったが、じっくりと形や色を見ながら描く経験ができた。

△「ななはけラボ」の期案では万国旗製作の前に「ななはけラボ」を活用する計画であったが、今年度は万国旗製作の後に形探しの活動をした。興味をもったことを事後につなげていけたことは今年度の幼児の実態に合っていた。幼児の興味や関心を捉えて、「ななはけラボ」の活用時期や方法を今後も考えていきたい。

3期 1年生

実践① 算数「3つのかずのけいさん～さんすうじゃんけんれっしゃをしよう～」（9月下旬）

《第1時》じゃんけん列車の遊びの場面から、3つの数の加法と減法の式の意味を理解し、その計算をする。
ランチルームの机・椅子を片付け、遮蔽物のない場で行った。教師の「今日は算数じゃんけん列車に挑戦してみましよう」の呼びかけに、子どもたちは「おおー！！」「やったあ！」などと予想以上に喜んだ。はじめは全員がバラバラに分かれた状態からじゃんけんを2回行い、結果を3つの数の式に表した。「はじめは1人で、次にじゃんけんで勝って1人増えて、その次にもう一度じゃんけんをして、2人増えたから、4人になった。 $1+1+2=4$ 」など。ルールが分かかってきたところで、「別の人数になっても式が立てられるかな？」と問い掛け、はじめの人数を1人、2人、3人とばらけさせた状態で再度じゃんけん列車を行った。「はじめに○人、次に△人増えて、また□人増えた。 $○+△+□=◇$ 」と、お話と式が作れるようになったところで「ひき算じゃんけん列車」に挑戦した。7～8人で列車になり、先頭が担任と王様じゃんけんをし、勝ったらそのまま、あいこは1人減、負けは2人減というルールで行った。同様に、「はじめは◇人いて、次に□人減って、その次に△人減って残りは○人。 $◇-□-△=○$ 」と、それぞれの列車のお話と対応した式を立てさせた。

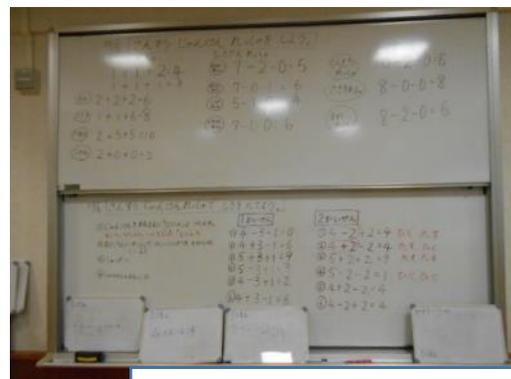


引き算じゃんけん列車。盛り上がりながらも、「はじめに□人減って、次に△人減ったから…」と、問題場面を確認する姿があった。



他の班の友達に問題場面と式を説明するときには、実際に自分たちが動いて表現していた。

《第2時》じゃんけん列車の遊びの場面から、3つの数の加減混合の式の表し方や計算の仕方について表現する。
前時と同じランチルームで行った。生活班（4～5人組）で列車を作り、じゃんけんをする前に「勝ったら何人もらうか」を相談し、相手に申告してからじゃんけんをする変則ルールで実施した。先頭の児童がはじめの人数を記入したホワイトボードをもち、2回のじゃんけんによる人の増減を式に書き表した。前時の学習を踏まえて子どもたちは、「はじめに・次に・その次に・答えは（最後に）」という言葉を用いながら、実際に自分たちが前に出て動いて見せながらお話と式について説明しあっていた。「 $4+2-2=4$ 」と「 $4-2+2=4$ 」を見て、「同じだ」とつぶやいた子に対して「違うよ、増えて減ったと減って増えただよ」など、自分なりの言葉で場面の違いを表現する姿もあった。



ミニホワイトボードに式を書いたり、全体で共有したりした。

《第3時》前時までの学習を振り返りながら、3つの数の計算に習熟する。

教室で実施。導入では子どもの名前を書いたマグネットを用いて前時のじゃんけん列車と同様の場面（加法、減法、加減混合）をノートに立式させた。教科書のデジタル教材（ネコがバスを乗り降りするもの）なども活用し、答えが10までの数になる3つの数の計算の適用問題を実施した後、教科書で取り扱っている4つの数の計算についても触れた。

<○成果 △課題>

- 「遊び」と「学び」をつなぐことを考えたり、幼小接続の視点を意識して授業の計画を立てたりする際に、幼児期の経験を想起させたり、遊びの要素を授業に取り入れることが考えられるが、教科や単元のねらいに即した、児童の実態にあった内容を精選する必要があると感じた。
- 音楽の学習や2年生や6年生との交流遊びで楽しんだ「じゃんけん列車」を題材にした結果、主体的に活動に取り組み、体と頭をたくさん使った算数の活動ができた。

実践②生活「きれいにさいてね わたしのはな～ニューあさがおミッション～」(9月中旬)

5月から主体的にお世話をしてきたアサガオとのお別れの時期が近付いてくるにつれて、「さみしいな」「もっとアサガオちゃんと過ごしたいな」という声がパラパラと上がった。子どもたちは「はなをさかせる」「たねをゲットする」というふたつのミッションに挑戦中であつたが、全員きれいな花を咲かせ、種も少しずつ取れ始めてきたため、アサガオが枯れる前に、お別れに向けた新しい計画を立てることとした。

「アサガオちゃんといっぱい遊ぼう」を合言葉に、これまでの草花遊びの経験を思い出したり、「ななはけラボ」の本や図鑑、生活科の教科書などで調べたりしながら「色水遊び」「たたき染め」「押し花」の3つに挑戦することを決めた。「リース作りをしたい。そのためにドングリを拾いに行きたい」という案も出たが、花や草を用いた遊びと、蔓を用いた制作は同時に行えないので、リース作りは後日となった。

日を改めて「ななはけラボ」に行き、必要な材料や道具、手順を自分たちで調べ、やりたいことや準備物について情報共有した。よく晴れた日に行くこと、アサガオは毎朝摘んで冷凍するが、それだけでは足りないので、色水遊び用にオシロイバナも集めておくことを決めた。

ある日、幼稚園の運動会練習を参観したあとでオシロイバナを摘んでいる1年生のところに主事さんがやってきた。草花遊びをする予定を話すと、台風で倒れてしまい伐採したキバナコスモスの花を、子どもたちの背丈ほどのバケツいっぱいを持ってきてくれた。オシロイバナもキバナコスモスも種がアサガオと異なる形をしていること、オシロイバナにはアサガオと同じように花の真ん中に管のようなもの(おしべとめしべ)があることなどに気が付き、友達と伝え合ったり担任に知らせたりしていた。

材料の花がある程度集まった後のよく晴れた日、低学年昇降口の内外に場を設定し、草花遊びを楽しんだ。自分たちが育てたアサガオはもちろんのこと、校庭に生えている野草のオシロイバナや、主事さんたちが育てたものを提供してくれたキバナコスモス、大葉なども使って、草花遊びを楽しんだ。色水遊び・たたき染め・押し花のために子どもたちが指定した材料を用意したが、遊びが発展するにつれて、当初は予定していなかった遊び方もどんどん自分たちで作りに出す様子が見られた。



オシロイバナを摘んでいたら、主事さんからキバナコスモスをもらった。アサガオと比べて、花のつくりや種の形はどうかな。



校庭や昇降口に遊びに必要なものを並べ、思い思いに草花遊びを楽しんだ。



「ななはけラボ」で遊びの計画。どんな遊びができるかな。本や図鑑で調べたり、自分たちの経験をもとにしたりして準備した。

<○成果 △課題>

○自分たちで遊びの計画を立て、必要なものを調べて一覧を作ったことで、見通しをもって活動に取り組んだ。

○主事さんが台風で倒れたキバナコスモスを提供してくれたことで、学校生活を支える人々の働きにも目を向けることができた。

△子どもたちにななはけラボで計画を立てさせ、準備も時間の余裕をもって進めたつもりだったが、当日の場の設定に難しさを感じた。幼稚園の園庭などで遊んでいる様子をイメージしたが、もっと子どもたちにとって活動しやすい場がなかったか検討したい。

実践① 算数「長方形と正方形」(9月下旬)

本園・校の3回目の研究授業の単元として、9月～10月に行った。研究授業では、導入部分を行い、教科書の流れとは異なるアプローチの仕方を取り入れ、幼児期から現在までの生活経験を生かした学習の進め方を提案した。

《第1時》身の回りにあるものの分類を通して、三角形と四角形の仲間分けを行う。(研究授業も本時)

教科書では、いろいろな三角形や四角形の形を並べる活動を行い、まわりの直線の数やかどの数(この時点ではまだ辺や頂点は未習)によって分類するという視点を与えて、三角形と四角形に分けていく。

しかし今回の授業提案は、その視点も自分たちで見いだすことによって、自ら形について主体的に考えていくという態度を養うために児童の身の回りにあるいろいろな形から分類させていく活動を行った。まず、以下の10種類の形を順に見せていった。(見せるときは、順不同)



見たことあるものがほとんどであるが、身の回りの生活で目にするものも入れてある。国旗や道路標識などである。これらを見ると児童は、「さんかく!」「しかく!」と口々に答えていく。そして最後まで見せた後に、『これを形に注目して仲間分けしましょう。』と投げ掛けた。まずは、念頭で一人ひとりに考えさせていく。自分の考えを持つためである。そして、それを持ったうえで今回の授業ではグループで仲間分けをさせていった。

子どもたちは「さんかく」と「しかく」に分けると思っていたが、実際には「しかく」をさらに「ながしかく」と「ましかく」に分けるグループが多かった。しかし、仲間分けのためのホワイトボードを2枚渡しているの、「ながしかく」と「ましかく」は1枚のホワイトボードに入れているグループが多かった。なので、最終的には「さんかく」と「しかく」に分けていることに気付くことができた。ここまでは、第1学年の内容であるので、ここからさらに『このさんかくとしかくの仲間をさらに2つに分けることができるか』と問い掛けた。「ながしかく」と「ましかく」に分けるグループが多い中、話合いの中で「このさんかくは、とんがっているのとんがっていないのがあるよ。」と発言した児童がいた。その発言を取り上げ『じゃあ、しかくも同じように仲間分けできるんじゃないかな。』と考えさせ、「さんかく」の中から三角形を、「しかく」の中から四角形を見つけ出していった。

<○成果 △課題>

○個人で考えることが多い学習においても、グループでの話合いを通して、いろいろな刺激を受け新たな考えが引き出されたり、考えがさらに深まっていったりすることにつながる学習になった。



いろいろな形について、違うところや共通のところについて話し合ったり、共有したりした。

《第2時以降》

第2時以降では、辺・頂点の用語を知り、直角について学習した。新たな用語を学習した際には、その都度身の回りにそれと同じ形が見られるかどうかを聞いていった。直角の時には、教室や廊下で直角を探し出し、長方形や正方形を学習したときにも、既習だった「ながしかく」や「ましかく」のことだったと確認していった。以前の学習で出てきたものを新たに学習したものと結び付けることで、これまでの学習とつながりがあるということ子どもたちに認識させていくことにつながっていった。長方形や正方形の図形が直角のある形でできていることは、5期の『はこの形』の学習へとつながっていく。その実践提案は、2月の研究発表会で行う予定である。

第9時では、長方形や正方形、直角三角形を敷き詰める活動を行った。同じ大きさの形を敷き詰める活動を通して、第3学年以降の二等辺三角形や正三角形、さらに第5学年での合同な図形の学習へとつながりをもたせることができる。

実践② 生活「えがおのひみつ たんけんたい」（9月下旬～10月中旬）

2期の学習である「まちが大すき たんけんたい」での経験から、学年で回った町探検で見付けたお店や自分たちが地域の中で知っている施設の中でさらに詳しく調べてみたい場所について話し合った。新型コロナウイルス感染症の流行により、2年前は地域の公民施設1か所、去年は3か所のお店や施設だったが、今年度は8か所のお店や施設にアポイントメントを取り、直接施設見学に行かせてもらえた場所が5か所になった。



施設の中で、自分が行ってみたいところ、調べてみたいところのアンケートを取り、3つ選んでもらった。その中からグループを作り、自分の調べたい施設を決めた。8つの施設に事前に子どもたちからの質問を渡し、直接見学に行くところでは当日担当の方にインタビューをさせていただいたり、施設の中を案内してもらったりした。施設の中では、普段は入れないような工場やお店の倉庫や、お店の品物の説明などをしてもらい、日常の中で買い物をしているだけでは気付かないことを見せてもらうことができた。質問用紙を渡して回答してもらった施設では、後日回収を行い、子どもたちに質問の答えを渡す形式をとった。この後、グループごとにクイズや紙芝居を作ったり、写真を見せながら説明をしたり、ペープサートで表現したりしながらそれぞれの施設について発表できるようにしていく。

○成果 △課題

○自分が興味・関心をもった施設について調べることで、主体的に質問を考えたり、施設の見学をしたりする姿が見られた。

△児童の希望でお店を選択させたので、最後のまとめる活動においてグループによって差ができてしまった。どこまで子どもの思いを大切に活動させるかを検討していくとよい。